

<講演要旨>

●北海道における風力発電事業の概況

石狩湾岸の風力発電を考える石狩市民の会代表 安田秀子氏

環境影響評価法対象の40事業のうち、9事業は評価書が確定し、すでに稼働あるいは建設中です。準備書段階は終了13事業を含め16事業におよび、道北は9事業を占めています。既設と計画中の事業を概観します。

●風車騒音による健康影響と石狩湾新港洋上風力発電事業のリスク評価

北海道大学大学院工学研究院 環境創生工学部門 環境管理工学分野 大気環境保全工学研究室 助教 田鎖順太氏

有力な再生可能エネルギーとして導入が進められている風力発電ですが、その近傍の住民に、不眠、めまい、頭痛等の健康影響が多く生じることが世界中で報告されています。また、風車より生じる騒音がこの原因と疑われています。この講演では、風車騒音による健康影響やそのリスクについて正しく理解することを目的とし、科学的知見を紹介し、石狩湾新港で計画されている事業に関するリスクの評価結果を説明します。

●小型風力発電による健康影響と道北の風力発電建設計画

風力発電の真実を知る会代表 佐々木邦夫氏

現在、道北には112基の大型風力発電が稼働しているほか、環境影響評価手続き中の600基を超える大型風力発電が計画されています。一方、環境影響評価が不要な小型風力発電においては約200件が事業計画認定を受けており、2017年稚内市に建設された小型風力発電は、住宅に隣接しており、住民から不眠などの声が聞かれます。増え続けていく風力発電から様々な影響が懸念されます。

●風力発電用風車が野鳥に与える影響

日本野鳥の会札幌支部副支部長 猿子正彦氏

すでに50羽近い天然記念物であるオジロワシやオオワシが大型発電用風車に衝突死（バードストライク）しています。また、最近では海岸線の道沿いに小型発電用風車が建ち並び目立っていますがこれも小鳥たちには多大な悪影響を与えています。このことに関する「日本野鳥の会」の取り組みを紹介します。

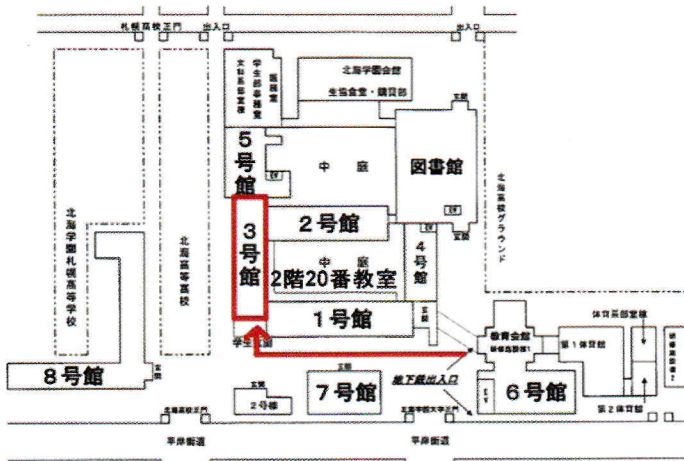
●支笏洞爺国立公園・世界ジオパークとその周辺地域への影響

北海学園大学名誉教授・北海道自然保護協会理事 佐藤 謙氏

留寿都風力発電所は、支笏洞爺国立公園の3区域（洞爺湖・羊蹄山・定山渓）の間を埋める留寿都村南東端（竹山付近、洞爺湖町と伊達市大滝地区に近接）に予定されている。この予定地は、国立公園外ではあるがそれに近接し、重要野鳥生息地（IBA）や国有林の保安林にあり、さらにルスツリゾートのスキー場から見下ろす山域にあたるため、自然環境・生活環境・自然景観（観光資源）への悪影響は多大である。

<地下鉄「学園前」駅から3号館への行き方>

北海学園大学 校舎教室等配置図



※表面のイラストは「イラストAC」からのイラストを使用。

参考情報

- ・（一社）北海道自然保護協会
Tel 011-251-5465
<https://sapporo1.com/NC/index.html>
- ・石狩湾岸の風力発電を考える石狩市民の会
携帯 090-6211-1602
<http://windturbine.lbcc-alumni.jp/index.shtml>
- ・日本野鳥の会札幌支部
Tel 011-613-7973
<https://sapporo-wbsj.org/>
- ・what's
<http://whats-everything.jimdo.com>
- ・銭函海岸の自然を守る会
Tel 0134-29-3338